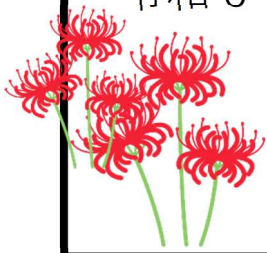
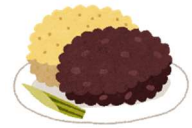


令和6年度



赤羽根の里だより



茅ヶ崎市立赤羽根中学校 学校便り

令和6年9月24日(火)

校長 高橋 励

Dear Student(*^_^*)

親愛なる「赤中生」へ

降りかかる火の粉と 降り注ぐ愛情を
けて間違わずに来たとは言えない

これ、自分の行動を振り返るときに頭に浮かぶ、
わたしが愛する中島みゆきさんの唄のワンフレーズ
です。あなたの周りであなたのことを大切に思う人
が、時にあなたにとって「耳の痛い」ことを言うかも
しれません。それに対してあなたは聞こえないふり
をしていたり、「大きなお世話!」などと思っていたり
するかもしれません。でも、その思いって
降りかかる火の粉としてはらいのけてし
まっていいものでしょうか?



9月のはじめに生徒会本部役員が紹介してくれ
た「心のコップ」の話、思い出せますか?学校だよ
り9月6日号でも「怒(=相手の身になって思い・語
り・行動する)」という考え方とあわせて載せました。
また、地域の皆さんがこの赤羽根中に通うあなた
のことを大切に見守ってくださっていることも、9月
17日号で話題にしました。でも、あなたにとっては、
多くの方々の心配り=愛情によって成長を支えてい
ただいていることがあまりに「あたりまえ」のことにな
っていて、日頃は忘れてしまったりするのかもしれ
ませんね。

先週19日金曜日、学校に一本のお電話をいた
だきました。下校中の「赤中生」が道に広がって歩
いていて通行の妨げになっている、というものでし

た。その方は、以前にもお電話をくださっていて、直
接声もかけてくださっているようで、その日に限った
ことではないようです。その方は、かつて赤羽根中
に通われていた、いわば「先輩」だそうです。

「迷惑はかけていないつもり」「よけたつもり」
はあなたから見た景色。「迷惑になっている」とい
うのは周りの人から見える景色。自分では気づけ
ていないことを伝えてくれるのはその人の「愛情」。
今回のお電話は、後輩にあたる赤中生が人に迷惑
をかけるふるまいをしていることを気にかけてくださ
った「愛情」だとわたしは受け止めています。

例えば、道をふさぐように歩くことは他の歩行者
の迷惑になるからしないほうがよい、とか、狭い場
所ではお互いに譲り合って通行するのがよい、な
んてことは、あなた自身よく知っているはず。でも、そ
れが行動に活かされていないことはありませんか。

わたしたちは、人と関わらずに生きていくことは
できません。だから、人と共に、より良く暮らしていく
ためのふるまいを身に付けていくことが、お互いに
求められます。「あたたかな聴き方 やさし
い話し方」もそのふるまいの一つですよ。ね。



あなたが登下校に使っている道は、幅が
狭かったり信号待ちのスペースが限られていたりす
る箇所があります。そこで小和田小の子どもたちが
安全に通れるように気遣ってくれている赤中生が
いるらしいことも見守りの方々から聞いています。

相手への思いやりをふるまいとしてきちっと示せ
る「赤中生」であってほしいと思いつつ、今回伝え
たいことが、あなたに「火の粉」として払いのけられ
なければいいな、と思う校長です。